令和 2 年度第 3 回淀川区区政会議

日 時：令和 3 年 3 月 1 0 日（水）

午後 6 時 2 9 分～午後 6 時 4 2 分

午後 7 時 3 5 分～午後 8 時 3 7 分

場 所：淀川区役所 5 階会議室

○久保政策企画課長

皆さんこんばんは。

本日は御多忙のところ区政会議に御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開催に先立ちまして、委員並びに傍聴の皆様方に御案内させていただきます。

本日の会議は新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けまして、換気のため窓を開放し、マイクにつきましても発言者の交代ごとに消毒するようにいたしますが、御理解のほどよろしく願いいたします。

また、開催通知にも記載させていただきましたがマスクの着用、せきエチケットの徹底、会場前に設置の消毒液による手指消毒に御協力をよろしく願います。

また、会議は公開しておりますのでホームページや、広報誌「よどマガ！」の紹介用に事務局スタッフが写真撮影をさせていただきます。

議事録を作成するために録音をさせていただきますのでよろしく御了承のほどお願いいたします。

なお、携帯電話につきましては電源を切るか、マナーモードに切りかえていただくようよろしく願いいたします。

それでは定刻となりましたので、ただいまより令和 2 年度淀川区区政会議第 2 回各部会及び第 3 回全体会議を始めさせていただきます。

私は本日の進行役を務めさせていただきます淀川区役所政策企画課長の久保と申します。よろしくお願いいたします。

委員の皆様方には御多用中のところ御出席いただきまことにありがとうございます。

それでは開会に当たりまして区長の山本より挨拶を申し上げます。

○山本淀川区長

皆さん、こんばんは。淀川区長の山本でございます。いつも大変お世話になっております。

いつも冒頭で少し御挨拶をさせていただくんですけども、今日は担当から委員の皆様方の御意見を聞いて、最後にちょっと時間をとるというふうに聞いておりますので、早速議題のほうに移っていただきたいと思います。

本当に今日は皆様方、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

○久保政策企画課長

それではお手元の資料を確認させていただきます。

区政会議の次第があります。裏面に配付資料一覧を記載しております。

続きまして委員名簿、裏面に座席表。

資料3といたしまして「令和3年10月以降の区政会議運営について」。

資料4、こちらは毎年この時期に区政会議でお配りさせていただいている来年度の区の事業別予算一覧となりますが、先日のアンケートで「実際に使っている額を知りたい」という御意見がありましたので今年度の予算額の横に決算額の見込みを記載しております。基本的には年度を通しての予定どおり執行したものが多のですが、コロナの影響により事業実施ができなかったことや入札の結果、契約額が当初予算より下回ったことにより決算見込み額が予算より大きく減少している事業もあります。時間の関係で詳細の説明は割愛させていただきますが、参考としてお配りさせていただいております。

次に資料5、「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」及び裏面に

「淀川区地域福祉推進ビジョン(淀川区おせっかい共和国宣言)」についてです。こちらにつきましても先日のアンケートに「地域の見守り支援体制や淀川区地域福祉推進ビジョンについての具体的な内容が知りたい」という御意見を複数いただきましたので、補足の説明資料をお手元に用意させていただきました。

続きまして会議資料以外に御意見票、返信用封筒をお配りしております。

御意見票に関しましては会議の最後に説明させていただきますが、会議終了後に御記入いただいておりますお帰りの際出口で御提出いただくか、後日返信用封筒により御送付いただきたいと思います。

資料1と資料2につきましては、事前に御自宅のほうに郵送させていただきました。

資料に不足のある方、もしくは事前送付資料を本日お持ちでない方がいらっしゃいましたら、こちらからお持ちさせていただきますので挙手をお願いします。

よろしいでしょうか。

それではお手元の資料に区政会議委員の名簿と座席表が裏表になったものをつけておりますので御参照ください。

前回、昨年10月2日ですが前回の会議以降、委員の異動がありました。宮原地域の浅井委員、続きまして木川地域の杉本委員です。

本日まだお見えになられてない方、西三国の新井委員、田川地域の石田委員につきましては今のところお見えになっておられません。

なお公募選定委員の横山委員につきましては仕事の関係でどうしても駆けつけられないということで事前に御連絡を頂戴しております。

続きまして淀川区選出の市会議員の皆様におきまして、市会質疑の開会中であるところ御出席をいただいておりますので紹介させていただきます。

坂井議員です。

○坂井議員

こんばんは。

○久保政策企画課長

時間の関係上、区役所の職員の紹介は省略させていただいております。資料の座席表に職員名と役職をつけておりますので御参照ください。

本日の終了時間ですが、通常であれば午後 8 時 30 分終了をめどに進行していただきたいと考えておりますが、委員の発言状況によりましては進行が早まった場合には新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、8 時半以前にも切り上げて終了したいというふうに考えております。

また発言、説明の際にはできるだけ簡潔にまとめていただきまして、スムーズな進行をよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って、3. 議題に移らせていただきます。

まず前半部分は部会での進行になりますが、これまでに皆様からいただいている意見も参考に、来年度の運営方針を作成いたしましたので、各部会で案に対する御意見をいただければと思います。

お手元の運営方針（概要版）を使いながら、区役所から簡単な説明を行い、項目ごとに御意見をいただきたいと考えております。

なお来年度の運営方針ですが具体的取組の項目として、今年度運営方針の 2-1-3、ヨドネルと 2-1-4、子ども未来輝き事業がなくなっております。これはヨドネルが事業立ち上げ以降一定の成果を上げ、今後は数値目標を設定して、重点的に PDCA を回していく対象ではなく、一定の事業を継続的に行っていく段階に入ったためであること、また子ども未来輝き事業は、事業自体が今年度末で終了するためです。子ども未来輝き事業の終了につきましては、担当の保健福祉課から簡単に説明をいたします。

○矢野福祉担当課長代理

こんばんは。保健福祉担当の矢野と申します。よろしくお願いいたします。

子ども未来輝き事業につきまして、簡単に御説明をいたします。

この事業につきましては、貧困対策事業としまして生活困窮家庭の小中学生に対し、無料での学習支援を平成27年から実施をしまいたるところでございます。同年以降、小中学生の学習支援などの取組に対しましては、さまざまな取組が進んでおりまして、区の事業と他の事業との中身が重複しているといった状況でございます。

一方で、貧困対策事業としての子ども世代への支援といたしましては、高校を中途退学した、あるいは進路が決まらないままに卒業した、そういった子どもたちへの経済的な自立に向けた支援が少し進んでいないのかなというふうに考えております。

このような状況や施策の選択と集中といった視点を考慮いたしまして、子ども未来輝き事業につきましては本年度で終了し、高校世代を初めとしました若者世代への経済的な自立に向けた支援のほうに注力してまいりたいというふうに考えております。

なお若者の自立支援対策の事業につきましては、既存の仕組みを利用するために多額の予算確保はしてございません。そのために令和3年度運営方針のほうには記載をしていないということにしております。

以上でございます。

○久保政策企画課長

それでは全体の説明は以上のおりとなりますので、ただいま御着席いただいている配席の部会ごとに議題（1）令和3年度淀川区運営方針（案）について意見交換をしていただきます。

意見交換後、5分程度休憩を挟み、全体会議を19時35分からという形で移行させていただきます。

各部会で出た御意見について、部会ごとに全体会議において発表させていただきます。部会で意見をまとめていただく必要はありませんので、各部会でどんな意見があったかを御紹介いただきたいと思います。

発表者はどなたでも結構ですので、部会内で決めていただきたいと思います。

では区役所職員、部会に加わり意見交換を始めてください。

(部会ごとの意見交換)

○久保政策企画課長

それでは定刻となりましたので、ここから全体会議に移らせていただきます。

それではここからは泉水議長に議事進行よろしく申し上げます。

○泉水議長

それでは全体会議ということで始めさせていただきます。

議長をさせていただきます泉水です。よろしく申し上げます。

それでは各部会で出た御意見を共有したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では教育・子育て部会で出た意見の説明をお願いいたします。

○英委員

こんばんは。新北野の英と申します。

下手な発表で申しわけございませんが、少しの間聞いていただけたらと思います。

教育・子育て部会のほうなんですけれども、課外学習推進2-1-1のヨドジュクなんですけれども、場所は増やせないかということで、コロナの影響とか受講者が少ない、受講者を増やす努力はしましたかというお話も出ました。小学校6年生対象にしたチラシの配付や広報誌掲載によりPRし、春休み体験入学を実施しました。「遠いから行かないと言う子もいる」、「受講者が散らばり、結果、受講者が減ると実施業者が手を挙げなくなる」、もう一つは「児童数の多い学校の近くに会場をつくってはどうか」ということで、市場調査はしていないが既に塾が多い、そういうところには塾がいっぱいあるということです。

二番目の「小学生補習充実」のほうなんですけれども、12校以上増えてないのかということに、17校あるうちの12校が今、補習授業を実施されているということであとの5校について「指導員が少ない」、「学校とのマッチングが厳しい」というこ

とでした。学校によって実施方法が違っている、授業の内容が違っている事について、積極的に自分から来られている子どもさんもいるし、親に言われて来ている子たちもいるということです。

方向性としては、小さいうちに机に向かって学習習慣を身につけるとというのが基本の考え方との事です。

子育て支援のほうにつきましては、1のファミリー子育て教室、「コロナ禍のため人気のある企画なので日程調整して実施をしていきたい」と思われているそうです。

2のほうの地域子育てサロン助産師巡回相談、コロナ禍の運営で助産師の日程調整は早目に、希望はどんどん言ってもらったほうがありがたい、ママたちはマスクをしもらっているが幼児は基本していない、子ども、小学生とか幼稚園の子どもとかは親の考えです、しないをしもらっているということです。

意見としましては、子どもはどっちかという表情が見えないのでマスクをしないほうがいいんじゃないかという意見も出ていました。

それと最後にもう一つ、こういうところで説明してもらってもその状況が想像できないので、ビデオなんかを撮ってもらったりとかして皆さんに見てもらって、こういうことをしているということを見てもらったほうがいいということ、そのときの、実施をしたときの親御さんのアンケートなどもとって、皆さんにこういうアンケートをとったらこういうことが返ってきたということもしたほうがいいんじゃないかという話も出ました。

以上です。

○泉水議長

ありがとうございました。

続きまして、安全・安心なまち部会で出た意見の説明をお願いいたします。

○増田委員

安全・安心なまち部会で出た内容を報告したいと思います。

私は新東三国地域の増田でございます。よろしく申し上げます。

まず防災についてなんですけれども、7日以上のお蓄が今回は目標が3日以上のお蓄というふうになったんですけれども、その3日以上のお蓄というのが果たして本当にやっつけられるのかというような話し合いがされました。

例えば情報発信など、町会の掲示板などよりは、もしかするとお店に張ってあるほうが効果があるんじゃないかというような話も出たんですけれども、なかなか一企業と関係をしてそこに出してもらおうということは難しいんじゃないかというような話が出たんですけれども、そこは公助の取組の中に「災害時協力事業者をふやしていく」というようなお話があったので、その協定を結べたらいいねというような話をしました。

でもただ大きく淀川区内というようなものは難しくても、例えば野中地域さんでは地域内の企業さんにいろんな緊急事態宣言下ではフェイスシールドとかマスクなどを寄附していただくというようなすごくいい関係性を、災害時じゃなくても構築してるよというような情報も共有していただきました。

それとあとはもうお蓄のセットを、三日間セットというようなものを区役所で販売してはどうかというような、結構すごい画期的な案だと思ったんですけども、それがあれば本当に確実に何人が今お蓄しているということが分かったり、それを「よどマガ!」などで毎4月とかにそういった内容で広報すれば、「ああそろそろ入れかえなきゃいけないな」というようなことも分かたり、それから買った人のところに直接防災情報を出したりすることができたりするんじゃないかというような話も出ました。ただそれはスペースがある人の問題で、淀川区ではワンルームがたくさんありますのでその方々というのはその三日間のお蓄をするということ自体が難しく、それができていないような場合もあるかもしれないので、そういった場合には管理会社に呼びかけたほうが効果があるのではないかというような話がありました。実際に塚本の地域では災害に取り組んでいるというマンションがあるというような情報もいただき、

今はマンションを販売するときに災害リスクやハザードマップを提示して、「ここにはこんなリスクがありますよ」というようなことを説明することが義務づけられているというふうなお話も聞きました。ということでマンションの管理組合とか不動産会社さんと災害時協力業者の協定を結ぶのは有効ではないかというふうな話が出ました。

ただ、また災害時ではないところで、三津屋地域さんなどでは1日から2日の備蓄は町会でやったり、それからこれからは商店街や企業と組んでやっていくというふうな、やっぱり平時につながりを持っているところで備蓄をし合っていくというふうな工夫もされているというふうに聞きました。

それとあとは共助の取組なんですけれども防災訓練、今は小学校区だけでやってますけれども、三津屋地域さんはどんどん呼びかけをして、ほかの近隣の地域さんとも一緒に防災訓練をやっていきたいというふうなことをしているというふうな情報を共有していただけたので、今後そういった動きがあると共助も強くなると思います。

もう一つは防犯に関しては話が出なかったんですけれども、あとは福祉のところでは地域福祉の推進の中で、今ちょうど継続的に行われている地域における見守り名簿に関しての、なかなかそれを活用といっても限られた人しか見れなくて、活用できていない、必要な人に届いていないというふうな、その情報が届いていないというふうな問題点が出ました。

あともう一つは重点のところでは、ちょっとしたおせっかいができる人を増やしていくというふうなことはこの、個人情報とかにひっかからないような本当に簡単に買い物やちょっとした支援してあげたり、ちょっと話し相手になったりするという人を増やして、将来的には地域の中で見守りをし合えるようなそういう地域をつくっていくというふうなこと、そういうお話を伺うことができました。

以上です。

○泉水議長

ありがとうございました。

続きましてコミュニティ力向上部会が出た意見の説明をお願いいたします。

○奥委員

コミュニティ力向上部会、奥と申します。よろしく申し上げます。

地域コミュニティの活性化というテーマがあって、その中での議論が一番時間を費やしてしまったんですけども、一つにそのアンケートが、言葉や文言をちょっと変えてしまったことによって今まで40%、45%、47%と言っていたのがいきなり90%みたいなものが出ちゃったというようなものに関しては本当にそういうような文言が変わるだけでもアンケートって変わってしまう、それでも数値目標というのをつくらなきゃならないという、そもそも本当にそれでいいのかという話ですごく時間がかかってしまいました。

特にコミュニティ力というので、例えばこの地域のコミュニティというのは必要かどうかと聞かれても、捉え方によってはそんなのいらぬと言う人もいれば、それはいると言うのでつかみどころのないことをアンケートにしているわけですので、それよりも具体的に理解促進、何を目標にしているのかとか具体的な行事、地域の中でどんな行事をするみたいなことを知っていますか、餅つき大会があるのを知っていますか、具体的にやるようなアンケートにしたほうがいいのではないかというふうな意見になっていました。

地域活動に関心を持ってないということで「地域活動協議会、地活協を知っていますか」みたいなことを非常に多く、発信もすごくしてきたわけなんです。確かに「よどマガ!」なんかからも毎回のようには地活協って何、をやられていて、確かに知っている割合はもうどんどん増えているというのは実感としても出ていて、数値としても出ています。けども、そもそもというとコミュニティ力向上部会のめざすところからすると、地活協に全然入っていない方、どうやったら町会に入れるのというような方というのはそもそもからすると、100%になるわけがないようなところでもありますので、もう本当に今夜皆さんから話もありましたけれども地活協を知ってもら

ために地活協を知っているか、その答えに対してイエスかノーかだけを聞くのはできません。でもその地活協が何してるのかというようなことをもっと細かく発信していくというのが大事なんだろうというので、この後にも話がありました発信そのものということに対して具体的な発信というのを、具体的に一つずつホームページとかSNSとか情報発信というものを一つずつ丁寧に評価していきながら検討し、比較し、それを成果として数値目標はいったなという形にするのが一番理想なのかなというふうに思っています。

それから区民のニーズの的確な把握ということで、広聴というような仕組みもあったということなんですけれども、広聴機能というものも一生懸命やってらっしゃるといってもやっぱり知らない人は知らないみたいなどころもあるんですが、我々ここにいるメンバーからすると評価は非常に高くなっているような気がします。これもアンケートで誰にするのか、相手はランダムだということで、ちょっと話を飛ばしてしまいましたけれども。

窓口サービスの星一つ、星二つの話もそうですけれども、僕個人的にはサービスが3でだからどうなのと思っているんですけれども、確かにいいには越したことはないですけれども、サービス業になってしまっても仕方がないと思うんですが、そもそものアンケートの対象とか母数とかいうのもよく分からないんですよ、覆面調査で来られた窓口の調査でしかないそうです。ミシュランで星が二つとか三つみたいな話と同じぐらいの話みたいなので余り一喜一憂してほしくはないとは思っています。そんな中でも総じてやはり区役所としては数値目標をつくっていかなきゃならないということが非常に大変だなというふうには感じました。でも我々としてはこの中で一つ、具体的にちょっと皆さんにお伝えしておきたかったんですけれども、窓口サービスをよくしたいというところでどうすればいいか、職員皆さんがやっぱりやりがいをもって、誇りを持って仕事をしてもらえたらいいんじゃないかということをお話しさせてもらったことをこの区政会議の意見として受け入れていただいて、職員の表彰制度という

ようなものをつくることになったということをお話していただきました。そうやってやはり我々の区政会議の中で提案したことを吸い上げて実践していただいているというのが一つありましたということをお報告しておきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○泉水議長

ありがとうございました。

以上の3部会からの報告について、部会のほかの委員さんからの補足等はございませんでしょうか。またほかの部会の皆様からの意見でも結構です。

どなたか御意見はございませんでしょうか。

意見もないようなので、それでは次第に即して「3. 議題(2)」を進めさせていただきます。

事前のアンケートにおいて「現在のコロナ禍における各地域や御自身での取組において、対面でなくても地域でコミュニケーションをとる方法や地域活動での実施内容が知りたい」という御意見がありましたので、皆さんと共有できる事例がありましたら御紹介ください。

○福岡委員

西中島でございます。

事前に西中島でやってることを報告してくれということでお電話いただきましたのでちょっとまとめてきました。

西中島地域でのコロナ禍におけるコミュニケーションのとり方でございますけども、方法としては何個もありまして、まず対面のコミュニケーション、これは工夫してソーシャルディスタンスをとるというやり方ですね。それとグループLINE、役員でグループLINEをつくっておりますのでその活用、それからE-MAIL、それから決議が必要な場合は書面ですというような形で西中島の地活協はコミュニケーションをとってやっております。

最近はやっておりますZ o o mだとかT e a m s とかというウェブ会議というのはまだ、そこまでのことは実はできておりませんということでこれを活用したら本当はいいんだと思いますけどまだパソコンとか持っておられない方もおられますものですからそういうところは書面と、決議が必要なときは書面でやるという形をやりました。

西中島地活協の理事会といいますのは、会場が西中島センターというところでやっております。この西中島センターというのは大阪市の環境局が管理をしているところでございます。ここで大体理事会はやっております。西中島にもう一つ、憩の家というのがあるんですけどここは小さくて、42の理事数ですのでその中では3名が兼務しておりますので理事数が38名、区役所からと社協からとまちセンの方も御出席いただいておりますので、大体全員出席しますと42名という形になります。ですので全員が出席することはまずないですよ、大体37名から38名でやっておるのが普通なんですけども、そうしますと会場が限られてきまして西中島センターの大きな部屋を使うというのが普通なんです。ところが第一回目の緊急事態宣言と第二回目の緊急事態宣言のときには会場が使えないと、第一回目の緊急事態宣言のときは閉鎖されました。2回目のときは数が大きな部屋で20名までという形で、そういう形で使えないと、理事会は使えないという形で書面を使うという形をしたんですけども。

一番最初に言いました工夫した会議というのは大きな部屋と小さな部屋、大阪のレッドステージというんですか、それとイエローステージがありましたんですけど、そのときには数が制限された中にも使わせていただきまして大きな部屋で25名、それから小さな部屋で12名、その部屋を例えば机の配置を考えると、もう一つはワイヤレスのマイクを入れてやると、これは実はいまいことできなかったんですけどそういう形でやるということも一応やりました。決裁が必要なときはちょうど緊急事態宣言のとき、どちらの緊急事態宣言でも決議が必要な案件がございましたので、そのときは書面でやるという形でやりました。その書面は理事の皆さんに役員が分担して配ったわけですけども、決議をやったということです。一応西中島の会則では多数決という

ことになっています。会議の理事会は理事の半数以上が出席して出席理事数の多数決で議決するという形をとってるんですけども、書面の場合は、今回の便宜上多数決でやるという形でやりました。理事さんにお配りしましたのは資料プラスそれに対してどう思うかと、賛成か反対かという形で丸をつけていただくと。意見があれば意見を書いていただくということで回収しまして、さっき言いました多数決で一応はやったということでございます。多数決なんですけども、反対意見を書かれた方もおられます。ですのでその方に関しましては役員会をやりまして、その役員会が今さっき言いましたグループLINEとそれからE-MAILでやって、今回の場合は集まる必要はなくて、それで話し合いとかメールでやるという形でやりまして、当初の案件のままでいいんじゃないかということで役員会が決めましたんで、その反対意見の方に一応こうこうこうだということで納得していただきまして、一応全員の賛同という形をとらせていただいたということです。今回の場合はそういう形であったと。

私のところの会長さんの話では、こういう書面決議だとか、電磁記録のこういう決裁をやってる団体は大体全員賛同を条件にされているところが多いそうです。これは何でかと言ったら、その一方的にこう案件を出されてそれに対して個別的に賛成か反対かという意見を求めるわけですので、集まって審議をして話し合っただけで自分の意見を決めるということができない、そういうことのために多分全員賛同という形をとっておられるんじゃないかなというふうに思うんですけども、西中島の場合は一応その多数決という形にしたんですけども、西中島としましてはこういう場合に電磁式にしても書面にしましても、多数決にするのかあるいは全員賛同にするのかということがこれ、理事会で審議をして規約を変更したいという予定にしております。

以上でございます。

○泉水議長

ありがとうございました。

コロナ禍の中で会議運営について工夫されたということで事例紹介いただきました。

この件に関しまして、皆さんのほうから御質問等はございませんでしょうか。

はい。ないようですので、続きまして増田委員のほうから事例紹介いただけるということでよろしくをお願いします。

○増田委員

増田です。

私もコロナ禍の中で、私たちは新東三国なんですけれども、新東三国地域がチャレンジしたことについてちょっと御紹介させていただきます。コロナ禍の中の私たちのチャレンジです。

コロナ禍の中で、私たちは二つ大事なことができなくなりました。それは小学校を拠点としたコミュニティの形成と、それから地域住民が集まって地域の課題解決のために活動するということができないというような結果になりました。コロナ禍の中でこういった事業ができませんでした。

一方でコロナ禍だからできたものがあります。こういったものは新しく私たちがコロナ禍だからやった内容です。

この中で、今日は時間も少ないので二つ御紹介したいと思います。まちなか安否確認訓練と、それから避難所運営訓練のコロナ禍バージョンです。これは集まってできない訓練でしたので、集まらない防災訓練になりました。じゃあ集まらないかわりにどうやってつないだかという、このLINEとGoogleマップとそれからMicrosoft Teams、こちらを使って行いました。で、これを見て多分皆さんお気づきになると思うんですけど、済みません、こんなに暗くなると思わなかったんで、これが淀川区の防災LINEです。そしてこちらが淀川区の防災マップ、防災マイマップです。それとあとは、もしもウェブの会議をするのであればMicrosoft Teamsを淀川区は使うというようなことになっているので、じゃあこのツールを使ってそれで区役所ともつなごうというような形で私たちの訓練は始まりました。

こちらが10月24日に行ったまちなか安否確認訓練になります。こちらの場所は地域全域と社会福祉会館を仮の本部としました。

参加者は地域住民全員に呼びかけました。

内容としては安否確認用のタオルを掲揚してもらって、それからタオルの掲揚状況を報告、グループLINEに報告してもらって、本部で掲揚数を集約して区の本部に連絡するというものです。

これはコロナがあってもなくても私たちが大事にしてきた防災減災事業のミッションなんですけれども、まず自分の身を守る、その後は自分の身が安全だ、だからほかの人のところに助けに行つてね、救助にはほかの人のところに連れて行ってねという、近助の取組として自分の安否を周りに知らせる、それからそれを周りに知らせたらそれを町会単位で集約してそれで共助である本部のところで集約して、どこに一番早く救助に行かなければいけないかというような指示を出す。その状況を区の本部に連絡するという、この自助、近助、共助、公助が確実にバトンを渡せるように、そういった形にできるようにというのが防災減災事業のミッションでしたので、それを集まらずにしたというようなことになります。

こういった感じですね、当日は情報発信もLINEでして、ハッシュタグをつけて新東三国地域防災で今回はハッシュタグをつけました。

こちらがちょっと見にくいんですけども、黄色いタオルがこう出ている状況を撮ってもらって、それをカウントしていくというような作業をしました。

先ほどのLINEになるんですけども、こちらはGoogleマイマップになります。Googleマイマップの、まず各町会のエリアは前もってエリアを決めておいて、そこに写真をぼしぼし入れていく予定だったんですけども、なかなか動かなくて写真を2枚3枚重ねていくとちょっと飛んでしまったりとかいうことがあって、実はこれはざんげなんですけれどもこれはリアルタイムに写真を張るというような作業はできませんでした。そういったことが分かりました。

こちらはリアルタイムにできたことで、みんながそれぞれ役員全員がLINEで情報が入ってくるのでそれぞれ、私はGoogleマイマップに写真を入れる、そのほかの人はまず出てきた写真を出力する、これらのものを地図に落としていくというような作業をみんなが同時にできるのでかなり素早くいろんなことができました。

こんな感じで、みんながそれぞれのところでそれぞれのことをしているというような状況です。

後にこうやって安否確認訓練のアルバムを、このLINE上につくりました。これが町会ごとにこういう状況になりましたというようなものをつくったというような形になっています。でもこれはツールを使ったからできるというようなことではありませんでした。実はこれ、カウントしたのが800世帯ほどのカウントができたんです。で、3,000世帯ほどに配れたので25%、4分の1の掲揚率ということになりました。これが必ずしも高いというわけではないんですけども、実は防災訓練、いつもやっている小学校の防災訓練よりは倍ほどの参加率ということになります。一定の効果を得られたというふうに評価はしていただいたんですけども、それは何もLINEとGoogleマイマップだからではなくて、こういった地道な活動がありました。これは今日実は持ってきているんですけども、後ろに置いてあるんですがタオルを買ったときに、じゃあ何、のしをどういうふうにしようみたいな話になったときにも、のしをそのままチラシにしてしまおうということでA4でチラシにして、それをこうやってみんなで張りつけていきました。それで荷づくりもしてそれで出荷をするというような作業をしました。持っていくのもこうやって役員が両方、地活の会長さんと社協の会長さんなんですけれども、リヤカーで運んでくれました。リヤカーで運んでいったら、そこに電話して「今から行くから」と言ったら町会長さんが待っていて、「当日どういうふうにしたらいい」というような話をそこでできたんですね。そしたらその町会長さんたちは全ての町会ではないんですけどもすごく丁寧に班長会議で話してくれたり、チラシをまいてくれたり、いろんなことの手組をしてくれま

した。そのおかげで掲揚率が高い町会もありましたし、そうすれば皆が参加してくれるんだなというようなことも分かったということです。こういったアナログな活動がやっぱり、成功の影にはアナログありだったなというふうに思っています。

今度、こちらは2月にやった避難所運営訓練です。この避難所運営訓練は私たちの地域は9割が集合住宅になっていますのでこのコロナ禍でもありますし、在宅避難というようなことをちゃんと考えていかなければいけないというようなことから、在宅避難をしているところに津波が来た、だから私たちのところは津波想定はないんですけれども、でも想定外のこともありますので1階2階の人には3階に上がってもらう、3階以上に上がってもらうというようなシミュレーションの訓練を行いました。そういった状況の中で在宅避難者と被害状況と、それから垂直避難が終了したかどうかというようなことを、先ほどと同じようにグループLINEで入れるということをしました。今回は10月と新たに加えたものが区役所とMicrosoft Teamsでつないで、MCA無線ではなくMicrosoft Teamsでやりとりをしました。そのことはまた後で御説明します。

LINEに関してはこんな感じです。みんなこう入ると了解しましたというようなことで、ここでずっとLINEのほうでやりとりをしました。

同じようにこちらに関しては、先ほどと同じGoogleマイマップのところに状況を、こう付与された部分にチェックを入れていく、ここだったら橋にひびが入っていて通行どめになっている場所とか、交通事故が起こっててここは通行どめになっているとか、じゃあどうしよう、じゃあ町会のところに通行どめと張ってくださいとか、そういったことを指示するというようなやりとりをしました。でも残念ながらやはりこっちもGoogleマイマップをサクサク更新していくということはできませんでした。これはもうちょっとブラッシュアップしたいと思っています。

こんな感じですね。実はこの様子を区役所は180度までは映らないんですけれども、そのテレビ会議カメラを使っているなのでこの状況が区役所では見れたそうです。

私たちが何をしているというところが区役所では見れたそうです。私たちは区役所さんが災害対策本部も立ててくださって、このときは皆さん災害が起きてから8時30分を発災にしたんですけれどそれから区役所に来てくださったそうです。ここでやりとりをしました。

チャットの中がちょっと見にくいんですけども、チャットの中でもやりとりが、ちょっとなかなかチャットが動かなくなってしまうたりしたんですけどもやりました。これがすごく何がいいかというと、MCA無線だったら全部が何々町会が何名で、被害状況が何みたいな形で口頭で伝えて、多分それをメモするんだと思うんですけども、あっという間に今から写真で送りますとって写真を送ることができるんですね。そうするとMicrosoft Teamsのようなテレビ会議のシステムを使うと、音だけではなくて目でも一瞬にして状況を把握できるというようなメリットがあります。このために私たちは発電機を用意したり、この日も発電機を使ったんですけどもそれからWi-Fi環境を整えたり、そういった、とにかくできる限り電気が使えるのであれば通信機能を使おうというような取り組みをしました。

まとめなんですけれども、コロナ禍で気づいたことなんですけれども、今までやったことというのはコロナがなくても必要な視点だったなというふうに思ってます。それはどういうことかということ、感染症の対策の計画も立てていかなきゃいけなかった、それから情報の共有というのはやっぱり参加者だけじゃなくて地域住民全員との共有が大事だった。そういうことで地域全域を対象にしているという意識、これはコロナ禍がなくても大事なことだったということに気づきました。これはその後で避難所開設訓練を、学校が使いなかつたんですけども、みんなでこうシミュレーションをやったところなんですけれども、こういったことでコロナのおかげで私たちはたくさんことができるようになったと思っています。

以上です。御清聴ありがとうございました。

○泉水議長

ありがとうございました。

先ほどの増田委員の事例紹介について、御意見等、御質問等ございませんでしょうか。

○田中委員

東三国の田中です。

タオルをかけてられるというのは、あれは私は安全ですよという意味でのタオルですね。それでタオル自体は全戸に配布されたんですか。

○増田委員

そうなんです、そこがちょっと、残念ながら予算の関係で全戸にまで配布ができなくて、町会に加入している人に、町会ごとに出してもらいました。そこで町会に加入していない、マンションそれぞれ町会に加入していないところには訓練の御提案がなかなかできなかったんですけれども、マンションの中とかで町会に加入していないとか加入しているというようなばらつきがあるところには、どのタオルでもいいので目立つタオルを出してくださいということで参加を促すようにしました。そこがなかなかの課題ではあります。

以上です。

○田中委員

そのタオルはもう一枚一枚、町会長さんが数えられたという。

○増田委員

写真をできるだけ、広範囲でシャッターポイントというのをこれから見つけていこうと思ってるんですけれども、そののところが写真を撮ってそれをLINEで送ってもらって、そこでこう何枚というのを本部のほうでカウントをしていくというようなことをしました。なぜそれが必要かというと、私たちはそういうときに自主防災組織のメンバーとして、災害にもかかわらず人のためにみんなが動くことになるんですけれども、その人たちの安全というのを意識していなかったところを気づいたん

です。できる限り安否確認を安全な場所で素早くできる、簡単にできる取組はないかなというふうに思ったときに、それぞれの町会でできる限りこれからはシャッターポイントを決めていく、そこからだったら、こっちとこっちとこっちをこう撮ったら、もう比較的たくさんの被害状況が分かるというような場所を決めて、そこで撮って素早く知らせるといふように、時間をかけないことがその人の命を助け、守るといふことにもなるので、そういった取組を今後はしていきたいと思っています。

○田中委員

ありがとうございました。

○泉水議長

ほかに御意見と御質問等、ございませんでしょうか。

それでは次に入らせていただきます。

次第に即して「3. 議題（3）」を進めさせていただきます。

初めに議題（3）「区政会議の運営」について区役所から説明をお願いいたします。

○藏本政策企画課担当係長

それでは説明させていただきます。

政策企画課の藏本です。よろしく申し上げます。

これは今日最後の議題になりますので手短に進めさせていただきます。

それでは先日アンケートを皆さんにとらせていただいた結果を踏まえて、ちょっと区役所のほうでまとめた内容を報告させていただきたいと思います。

事前に資料2ということでアンケートを送らせていただきました。こちらをちょっとお手元で確認していただきながら聞いていただければと思います。

まず今回アンケートで聞かせていただいたのが「淀川区役所跡地の新しい図書館の活用方法、区政会議の中で意見を出していったらどうか」というのが一つと、あと前々から「公募委員の定数を増やしたらどうか」という話が出ていましたので、そこをアンケートで聞かせていただいています。

今このタイミングで何でこんな話をするかというところを最初にさせていただきたいんですけども、区政会議委員の任期が2年ありまして次の10月、あと半年ほどで委員、ここにいる皆さん全員改選になります。一期目の委員の皆さんはそのまま更新していただいてもう2年ということもできるんですけども、二期目の改選ができないので少なくともおよそ半数の方は新しく変わられてしまうという形になります。これ委員がごそっと変わる、2年に1回のタイミングをもって委員の定数とか部会をどうするかというのは2年前もそうだったんですけど検討させていただいてまして、今回そのタイミングなんでちょっと検討したいと。公募委員の募集については7月号の「よどマガ!」で募集して、その後8月に選定して9月に正式にお願いして10月から新たにお願ひするという形になりますので、広報誌の校了の関係でどうしても5月6月ぐらいで固めないと、確定させないといけないということで今日この場で御意見をいただいて、もう区役所の中で整理して方針を固めていかないといけないという時期になります。

早速なんですけども、まずちょっと新図書館の活用についてのところなんですけど、こちらはアンケートのほうで我々、聞き方が余りよくなかったなと思っているんですけども、ちょっと意味が余り我々のイメージしているところが伝わってなかったところも結構ありました。なのでこの円グラフの数字だけをもって多数決でどうだというふうには考えていなくて、イメージとしては淀川区役所の話、淀川区役所跡地の話をするというのは結構これから淀川区の新しい顔となるような施設にしていきたいという話なんで、余り片手間でするような話じゃないなというところから、じゃあどこかの部会で持っているテーマを外してもらって新しくやってもらったらどうかなというのがスタートで、それを考えたらコミュニティ力向上部会が結構安全・安心なまち部会と内容がかぶっているところが今までもあると言われていたんで、ちょっとコミュニティ力向上部会とコミュニティづくりの話を安全・安心なまち部会の中でやるようにして、コミュニティ力向上部会の中で跡地の話をやっていったらどうかなという

ふうには思っていたんです。これがちょっと我々の聞き方が非常によくなかったということ、それがアンケートの結果に結構出ていました。とはいえそのアンケートの結果の中で、御意見を直接書いていただいていたのがたくさんありまして、コミュニティ部会は新しい事業に特化するような内容に変えたらどうという話でいただいているものの趣旨としてはやっぱり新しい施設が淀川区の顔になるような施設なんでしっかり意見を出していったほうがいいし、集中してやったほうがいいという方向性の意見が多かったです。その他もたくさん選ばれていたんですけどその他で言われていたのは3部会が、三つだけじゃなくて4部会にしたらどうかと。兼務ありにしたらどうかという意見も結構ありました。2年前もあったんですけど兼務については反対の方も賛成の方も両方いらっしやって、もう最低限でやりたいとか、いやどんどん部会をいっばいやりたいとかいろんな方がいるんで、兼務ありきというのもちょっと難しいかなとは思っていました。そういう中でいろんな意見があるということに事務局は安堵してですねちょっと元も子もない感じになっているんですけども、区政会議とは別に十三駅周辺の魅力的な空間づくりのための検討チームを立ち上げることにして、今の部会はいじらないでおこうと思っています。コミュニティ力向上部会と安全・安心なまち部会の議論のテーマがちょっとかぶってマンネリ化しているんじゃないかみたいな御意見もあったんですけど、そこについてはちょっと我々も議題を工夫していきますので、今後ちょっと頑張っていくということで、一旦跡地の検討については区政会議の外でやっていきたいなと思っています。これは何でなんですかというのがちょっと次のページにあるんですけども、今、広報誌のほうにも何カ月か前に載せましたけども、十三の船着き場を整備してて御存じの方もいらっしやるかもしれませんが芝生化の工事とかを今やっています、近畿地方整備局が。これは令和3年度末、来年度末に完成予定なんですけども区役所としては今後この淀川区役所の跡地でにぎわいづくりをやっていく図書館と、あと新施設の前の公開区域を使って何かおもしろい仕掛けをやっていこうという話と、一緒に今度河川敷で、河川敷は結構大々的に改善するんで何か

イベントをやるだけとかそんな話じゃなくて本格的に何かものをつくるとか空間をつくるという話をやっていくんで、それは両方ですね、十三駅周辺のすてきな空間をつくっていこうというのを盛り上げてくれる意見をもらえる、自由にももらえるようなチームをつくりたいと思ってます。なので河川敷の話が水面下でここ最近一気に進んだんで、ちょっともうこれは一緒にするべきじゃないかと、逆に分けて考える話じゃないなということになりまして、かつですね、この河川敷の話も余り夢物語みたいに言ってるわけじゃなくて、もう本当にやっていくということがもう決まっていますので、今月31日、ちょっとまだ調整中ですけども、3月31日の朝10時からこの淀川区役所の5階で河川敷の魅力向上のための検討協議会というのを一般公開で報道を入れて大々的にやります。なのでこの中でも御関心のある方はその3月31日にぜひ来ていただけたらと思うんですけども、そういう中で若い人とかもっと地元を盛り上げていきたいと思う人たちの意見をどんどん聞いていくための仕組みづくりも必要だねという意見も出てくるとおられますので、そういうのも受けて跡地と河川敷と、淀川区の顔になるような空間づくりをするために自由に意見を出せるようなチームを立ち上げようと思って来年度の早々に広報誌で公募、メンバーを公募するようなイメージでいます。区政会議は御存じのとおり結構いろんなルールや縛りがあって自由に意見が言いづらいとかあるんですけどもって何て言うんでしょう、自由にわいわいがやがや楽しく意見を言えるようなそういう組織をつくって、かた苦しい話は協議会でというようなイメージで跡地と河川敷の検討をしていきたいなと思っています。ということで3月末に開かれる協議会の意見交換を踏まえて、ちょっとこっちは最終決定になるんですけども一応ちょっとそういう方向性でやらせてもらいたいなと思っています。

最後、公募委員の定数なんですけども、こちらはシンプルに増やしたほうがいいという意見がすごい多かったので、それで今のままでよいという御意見もコロナの話がとか、そういう話もありましたんで、一旦は増やしたほうがいいのかなと。ただ、人数は何人増やしたらいいのかという結構ばらばらでした。という中で今、公募枠は

んも来てやってたんですけど、やっぱり行政がこれで盛り上がりますよとかいってどんどんどんどん押しつけていく感じじゃなくて、地域の皆さんがこんなやつたらおもしろいよねという自律的に考えて言っていただけるような仕組みづくりをしないとやっぱり長続きしないんです。ほかの自治体でそうやって成功している事例とかもあるので、図書館とかでもその地域の皆さんがどうやって盛り上げていくみたいな毎月会議をして、イベントをやってみたいなものを作って、うまいことしているところもある。跡地についてはどうやってもそういう仕組みをつくろうと、河川敷についてもまだ事前調整中なんですけどいろんな方の意見を聞いている中で協議会はかたいことを決めるけどもそうじゃなくてやっぱり楽しくわいわい意見を言えるような場で自由な意見をもらうような仕組みも必要だねと言われているので、これをやるんだったら別々じゃなくて一緒にやったらということで確定じゃないですけど今はその方向で動いています。

○泉水議長

ありがとうございます。

○奥委員

いいですか。

もし可能なのであれば、今情報公開、情報公開と言われていて、密室で何か決まっていた、自分が全然参加する意欲も何もないのに決まってから文句を言うというのが結構あると思うので、今何でも、こういうのもそうですけど全部記録して、これをオープンにしていくのであればそういった会議も全部録画してYouTubeで常に配信するよみたいなものがあったとしても、やっぱりその決まっていくプロセスというのを公開していってもらえればだんだんだんだん透明性というのが上がっていくんじゃないのかなと思うので、今からつくられるのであれば、それがYouTubeがいいかどうかは分かりませんが誰でもオープンになってますというのは期待したいなとは思っています。

○藏本政策企画課担当係長

分かりました。

放つといたら議事録だけになるところなんですけどちょっと検討します。おっしゃるとおりだと思うんで。3月31日に間に合うかどうかはあるんですけど、できる限り検討します。

○泉水議長

ほかに御意見等ございませんでしょうか。

ないようでしたら以上で本日の議題は終了となります。

全体を通して何か御意見等ある方はおられないでしょうか。

ないようですのでここで進行を事務局のほうにお返しいたします。

○久保政策企画課長

泉水議長、議事進行どうもありがとうございました。

市会議員坂井先生も今日も来ておられまして、最後まで御臨席いただきましてどうもありがとうございました。

本日時間がなくて質問等はできなかったことにつきましては御質問票を配布させていただいておりますので、出口のほうかもしくは2週間後の3月24日までに郵送なりメールでいただければ幸いです。

次回の区政会議につきましては5月か6月に、今年度の運営方針の振り返り状況について、各部会の開催を考えていますが、新型コロナの感染状況等も勘案しながら、また開催の判断につきまして改めて御連絡をさせていただきたいと思います。

また本日の部会から何らかの形で体調が悪くなったとか、PCR検査を受けたということがありましたら、事務局まで御一報よろしく願いいたします。

それでは閉会に当たりまして、区長の山本より挨拶申し上げます。

○山本淀川区長

皆さん本当に貴重な御意見をありがとうございました。

私はもともと大阪市の職員なんですけども、区長公募ということで58歳のときに早期退職をしまして、公募区長は任期が4年ということなんで早いもので4年間でこの3月末で満了するというので退任ということになりました。本当にこの4年間、皆さん方には大変お世話になりました。

後任は大正区役所の副区長をやっておられた岡本さんという方が私の後任ということでもう既に発表されております。行政経験も豊富ですし、大正区役所のほうで副区長も経験されてるんで、私としては安心をしているところでございます。

今日もこの区政会議で、コロナ禍における活動ということで福岡会長のほうから西中島の取組とかいろいろ御報告いただきましたし、また新東三国での新たな形の訓練、私も安否確認の分もT e a m s の会議も現地に行って参加をさせていただきましたけど、本当に24区を見てもここまでの訓練をしている地域はなかなかないんじゃないかなと思うぐらいのレベルの訓練で非常にうれしく思っております。少し前のデータではございますけど南海トラフのそういう地震があった場合、淀川区で14,000人ぐらいの方が犠牲になる、お亡くなりになるというようなデータが出てますけれども、そこをふだんからどこに逃げようということをしっかり認識をしていて、グラッと来たときにすぐにそういう垂直避難なりで安全な場所に避難することができたら、お亡くなりになる方は34人まで減らせるというようなデータが出ております。14,000人の犠牲者を34人に減らすというのが行政としての本当に最大の課題かなと思ってたんですけど、ちょっとその点につきまして私は力不足でなかなか取組は十分にできておりませんが、区役所職員は本当に皆さん方の御意見を聞いて何とか活かそうというふうに思っておりますのでどうかこれからもいろんな忌憚のない御意見をいただきながら、またいろいろと至らない点はあろうかと思っておりますけれどもいろいろ御協力をいただけたら幸いです。

本当に4年間ありがとうございました。

○久保政策企画課長

それではこれもちまして、本日の区政会議を終了させていただきます。

長時間にわたり、どうもありがとうございました。

—了—